

2021年4月28日

自由民主党 処理水等政策勉強会 代表世話人
山本拓衆議院議員殿

食のコミュニケーション円卓会議
代表 市川まりこ

東京電力福島第一原子力発電所「ALPS 処理水」についての質問書

食のコミュニケーション円卓会議は、消費者が抱える「食」への疑問や不安に向き合い、消費者の利益を損ねている思い込みにとらわれない、より良い食生活が送れるようになるための活動をしている消費者団体です。

東京電力福島第一原子力発電所における多核種除去設備等処理水（ALPS 処理水）について、2年程度後に海洋放出を開始するという政府の方針が示され、新たな健康被害や風評被害への不安が高まっています。私たち、食のコミュニケーション円卓会議は、ALPS 処理水の処理に関して科学的根拠に基づいた活動を行うつもりでいます。

国の多核種除去設備等の処理水に関する小委員会（ALPS 小委員会）は6年の検討を経た令和2年2月の報告書で、トリチウム以外の放射性物質62核種については十分浄化できると評価しています。「ALPS」でも除去できないトリチウムについては、その健康影響は十分に小さいという説明がなされています。

4月14日の日刊ゲンダイ DIGITAL 記事「原発汚染水にトリチウム以外の核種…自民原発推進派が指摘」の中で、

「原発処理水に関する報道は、事実と異なることが多いので、国民に事実を伝えるべきだと思っています。東京電力が2020年12月24日に公表した資料によると、処理水を2次処理してもトリチウム以外に12の核種を除去できないことがわかっています。」

「ALPS 処理水と、通常原発排水は、まったく違うものです。ALPSでも処理できない核種のうち、11核種は通常原発排水には含まれない核種です。」と代表世話人・山本拓衆議院議員のご発言が報道されていました。

これらのご発言は、ALPS 処理水の海洋放出に関して大変重要なご指摘であり、問題点を明確にして行くことが必要であると認識しています。しかし、記事の中にはそれ以上の詳しい説明がなく、政府や東京電力の説明と食い違っているようにも思えます。東京電力が発表している資料のどの部分が問題なのかを具体的に教えて頂けますでしょうか。また、国民に対して今後どのような説明が必要なのか、「ALPS 処理水」はどうすべきなのかについて、貴勉強会の考えをお聞かせ下さるようお願いいたします。

以上